

SDGs～持続可能な取組～



私たちにできること～学校でできる資源や環境を大切にする取組～

香芝市立志都美小学校

6年

国語

めあて

学校の様子を見たり環境問題に関する本を読んだりして、自分たちが取り組めそうなテーマを探し、具体的な事実や考えをもとに提案する文章を書く

【もったいない電気や水】

学校では、電気や水、食料などが家庭よりもずっと多く使われています。学校の様子を見ると、誰もいない教室なのに電気がついていたり、手洗い場の蛇口が閉まっていなくてポタポタと水が滴ったりしていることに気がつきました。限りある資源だということは理解できているものの、より自分ごととして捉えるために、学校の現状を調査し問題点や解決策を話し合いました。

コロナウイルス感染予防の観点から手洗いをする回数が増えているという予想から、どの休み時間が一番ポタポタ水になることが多いのか、またどの階の手洗い場がポタポタ水になっているのか1週間実態調査をし、考察しました。手洗いで水を多く使うことが増えたとはいえ、ポタポタ水が続くとプール約108杯になるという情報をもとに、提案書やポスターを作成し呼びかけました。この取組から、下の学年の児童が手洗い場を使ってポタポタ水になっていたら声を掛け合う姿が見られたり、ポタポタ水の蛇口を率先して閉めたりする様子も見受けられるようになりました。

子どもたちからは、「見過ごしていたポタポタ水も、限りある資源だということを知ってから気にするようになった。」や「家の様子も知りたくなったので、調べてみようと思う。」と取組を振り返り「私にもできることがある。小さなことから始めよう。」と自信がもてるようになりました。

